

奈良県農業総合センター ニュース

2011
6
vol.139

普及指導成果 奈良県のダリアー球根・切り花・苗生産への取り組み支援ー

奈良県では、ダリアの球根生産が県北東部の宇陀市及び山添村を中心に、古くから行われています。平成20年の調査によると、作付面積・出荷数量ともに奈良県が全国第1位となっています。

新技術導入による球根の生産安定

このように奈良県の地域特産物ともいえるダリア球根ですが、近年、生産現場では、球根のウイルス汚染による生育不良、球根収量の減少が大きな問題となっていました。そこで、当センターではウイルス汚染された球根を茎頂培養することにより得られる、ウイルス汚染の少ない株（茎頂培養株）を用いて挿し芽増殖する技術を開発、提案しました。茎頂培養株由来の球根を用いることで、従来の球根に比べ欠株率が減少し、球根収量及び切り花収量が増加する（写真1）ことから、宇陀市でダリア球根生産を営む榛原花卉組合では、4年前よりこの茎頂培養株を用いた挿し芽増殖技術に取り組み始めました。

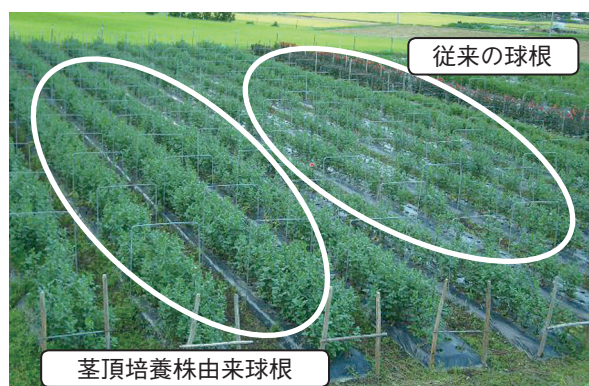


写真1 茎頂培養株由来球根と従来の球根とのダリアの生育差

現在、組合では、一度茎頂培養した株のウイルス再汚染対策も考慮し、網室ハウス内で親株を保存、更新しながら、挿し芽増殖による種球生産に取り組んでいます。

また、今まで当センターで実施していた茎頂培

養から順化までの工程も組合で実施できるよう、組合員の茎頂培養技術の習得（写真2）や施設整備に向けての支援を行っています。



写真2 榛原花卉組合員へのダリア茎頂培養技術実習

セル苗生産による冬切りダリア産地の誕生

茎頂培養株を用いた挿し芽増殖技術の導入は、単に球根の生産安定だけに留まらず、ダリアのセル苗生産にも活用できるようになりました。そこで、露地ギク栽培の裏作として、ハウスを用いたダリア冬切り栽培に関心のあった葛城市のキク生産者と連携し、冬切り栽培用のセル挿し芽苗を榛原花卉組合が生産、その苗を用いて葛城市の生産者が、11月下旬～5月にかけてダリア切り花を生産、出荷しています。

昨今、ダリア切り花は、昔からの仏花・お稽古花としてだけでなく、ブライダル需要としても人気が高まり、市場での取扱量が年々増加しています。そうした時代の流れも背景に、当センターでは産地と一体となって、長年培ってきた球根生産の地盤に新技術を組み合わせ、球



写真3 ダリア‘美榛（みはる）’
（奈良県生産者育成品種）

根・挿し芽苗・切り花の各生産段階において、良品・安定生産につとめ、奈良県ダリアのブランド力強化に取り組んでいきます。

（普及技術課花き指導係 藤井祐子）